

授業改善推進プラン(指導方法の課題分析と具体的な改善計画)

図工	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<p>○クレヨンや絵の具、粘土など、道具の置き方や使い方、片付け方を身に付けさせた。</p> <p>○道具を置くと、机の上がいっぱいになり、作業をうまく進められないため、四つ切の画用紙を使用して大きく描かせることが出来なかった。</p>	<p>○机を後方に下げたり、外へ出したりして、床全面を使って工夫して取り組ませていく。</p> <p>○図工室が空いている時に使用できるよう協力していく。</p>	<p>○他教科でも観察カードなどをかく際にポイントを伝え、絵に対する抵抗感を減らしていく。</p>
2年	<p>○クレヨンや絵の具などの道具の置き方や使い方、片付け方を身に付けさせた。</p> <p>○造形活動の内容をよく理解し、楽しんで取り組むことができる。</p>	<p>○形や色、材料の組み合わせなど、材料の特徴や扱い方を具体的に例示し、視覚的にとらえられるように指導する。</p> <p>○児童の興味や関心を持ち続けられるよう段階をおって指導事項を提示し、完成させた喜びを味あわせる。</p>	<p>○友達の作品を見合うことにより、工夫や良さに気づき、発想や構想に生かせるようにする。</p>
3年	<p>○様々な素材や用具を使い、時には時間をかけて題材に取り組んだ。全体に楽しく制作しているが、発想するのに時間がかかったり、十分思いを表わせなかったりする児童もみられる。</p>	<p>○教科書の題材例を示したり、作品に見本を用意したりして視覚的にわかりやすい導入の仕方を工夫する。</p> <p>○児童が主体的に制作できるように題材を精選する。</p>	<p>○鑑賞の時間をもち、自分や友達の作品の工夫や良さに気付け発想や構想に生かせるようにする。</p> <p>○グループで素材や用具を共有したり、教えあい、学びあいを取り入れたりして自信を持たせるようにする。</p>
4年	<p>○今まで学習した様々な表現をもとに、さらに新しい用具を取り入れ表現の幅を広げたことで意欲的に取り組んでいる児童が多かった。集中力が続かず落ち着かない児童もいる。</p>	<p>○発想、構想する時間を十分与えらるとともに、個別に支援し示唆していく。</p> <p>○担任・学年との連絡を密にとり、児童理解を図る。</p>	<p>○鑑賞の時間をもち、自分や友達の作品の工夫や良さに気付け発想や構想に生かせるようにする。</p> <p>○児童個々の特性や、表現の良いところを把握し、必要に応じて支援をする。</p>
5年	<p>○制作工程を理解し、楽しく意欲的に制作する姿勢が見られた。題材によっては自ら表現していこうとする姿勢が足りず、個別支援が必要な児童もみられた。</p>	<p>○本時の活動を明確にするための図などを用意し、ねらい、活動の流れを視覚的に明確にする。</p> <p>○担任・学年との連絡を密にとり、児童理解を図る。</p>	<p>○図工の授業に欠席したり、不得意で制作が遅れている児童に対して、休み時間や放課後等時間を確保する。</p> <p>○鑑賞の時間を設定したり、互いの作品を見あう機会を増やしたりして、学び合いができる場を持つ。</p>
6年	<p>○学習内容の理解に時間がかかる児童が多い。また、内容を十分把握しないまま取り組むため表現が広がらなかったり、深まったりしない。活動に入ってもそれぞれのペースで進めるため進度の大きな開きが生じる。</p>	<p>○出来上がりのイメージを持つように、題材を精選し、全体指導を工夫する。</p> <p>○担任・学年との連絡を密にとり、児童理解を図る。</p> <p>○学習の流れを細かく順序立てて板書。それをもとに指導する。</p>	<p>○図工の授業に欠席したり、不得意で制作が遅れている児童に対して、休み時間や放課後等時間を確保する。</p> <p>○進度が遅れがちな児童を中心に、できるだけ個に応じた指導、支援をする。</p>